



宇江城城跡の碇石

指定名称 う え ぐ す く じ ょ う あ と い か り い し 宇江城城跡の碇石（町指定有形文化財考古資料）
員数 1基
所在地 久米島町字比嘉2870
指定年月日 平成9年5月1日（旧仲里村指定）
所有者 久米島町教育委員会

この碇石は、平成4年（1994）11月に、宇江城城跡調査を行うために周辺の草木を刈り取った際に発見された。重量が179kg、長さ2.13m、厚さ15.5cm、中央部の幅は27cm、両端幅20.5cmで、やや先細りになっており、この種の碇石は「蒙古碇石」と呼ばれている。

碇石の大きさによって、使用していた船の大きさがおおよそ推定され、2m程の碇石の場合、全長35m（300吨）前後の外洋大型船に使われていたことが予想されることから、久米島を取り

巻く当時の交易を知る上で貴重なものである。

この種類の碇石は、博多湾を中心とした日本海沿岸で主に発見されており、宋代（960～1279年）から元代（1271～1367年）に利用されていたものと考えられている。久米島自然文化センターに保管している。